

第3回逗子市財政再建検討会議事概要

- ◎日 時 令和元年7月5日（金） 午後5時～7時05分
◎場 所 逗子市役所5階会議室
◎出席者 山科氏、畠中氏、筒井氏、玄氏、菊池氏（遅参）
桐ヶ谷市長、柏村副市長、企画課 橋本、経済観光課 楠元
◎関係職員 まちづくり景観課長 須田
◎事務局 経営企画部 福井、福本 企画課 仁科、四宮、金子
◎記 録 企画課 金子

- ◎配付資料 第3回逗子市財政再建検討会議 次第
【資料1】（仮称）プラットフォーム設置について
【資料2】＜検討資料＞企業誘致を進めるためのアプローチ
【資料3】逗子市ふるさと納税受入額推移
出席者名簿
座席表

◎議 事

1 開会

市長挨拶

2 これまでの状況報告について

市長より報告

- ・5月に市議会臨時会において、花火大会の警備費用に係る補正予算を提案し、議決された。
- ・地域エネルギー関係のモデル事業について国庫補助金申請を行った。
- ・ロードオアシスの崖崩れの件について、まだ残土等を撤去できていない状況である。これは、国庫補助金を申請しているため、8月上旬には駐車場の一部運営が出来る見込みである。採択前に撤去作業を行ってしまうと、国庫補助金対象とならないため、現在まで撤去できない状況であった。

3 （仮称）プラットフォーム設置について

事務局（福本）より（仮称）プラットフォーム設置について説明

（意見交換）

【筒井氏】質問が3点ある。1点目は、参加者はどこまで広げるか。法人はわかるが、個

人は、個人事業主ということか。2点目は、事務局は市で運営するのか。また、場所はどこで行うか。3点目は、モデル的に先行実施しているものはあるか。名称については、ビジネス的な課題解決と考えるならば、「ズシBizプラットフォーム」というのはどうか。

【福本】1点目の参加者について、個人事業主は当然参加できる。また、法人の代表としての個人ではなく、企業に属する個人の参加も想定している。2点目の運営について、全体ミーティングは市で運営を行い、WGは自主運営を想定している。場所については、全体ミーティングは市の会議室を想定しており、WGは、コワーキング事業者の参加も想定しているため、市内のコワーキングスペース等で実施することを期待しているが、場所が難しい場合は、市の会議室を貸すこともあり得る。3点目の先行して実施しているものがあるかについて、既にビジネスとして立ち上がっているものは無いが、地域の企業を集め協議会の形で実施している例はある。

【畠中氏】参加企業側に見せる時の資料としては、目的に記載されている内容は、違うのではないかと。企業は、地域の課題を解決するために商売を行っている訳ではないので、このプラットフォームに参加するとどんな良い事があるのかと考えた方が良い。逗子にしかない資産で儲かってくださいという考え方をうまく表現する必要がある。また、データを活用するという表現は注意した方が良い。市役所が公開するデータは、このプラットフォームに参加しなくても入手できるのではないかと等々の反発や、個人情報の取り扱いをどのようにするか等、データの取り扱いについて注意が必要である。スケジュールについても、事業者側の視点からすると、スケジュールに応じビジネスが起こったり、発展したりする訳ではないので、このスケジュールは内部資料としたほうが良い。必要な時に必要な支援ができる体制にすべきと考える。

【玄氏】課題解決が先なのか企業誘致が先なのかが見えてきていないため、最終地点がどこなのか明確になっていない。最終地点が明確になれば、それがこのプラットフォームの名称につながるのではないかと期待している。

【菊池氏】医療データと地域エネルギーの件は、ある程度のビジネスがイメージできるが、それ以外は、企業誘致なのか起業促進していきたいのかわからない。逗子の場合は、個人事業主の起業の話はあるが、これが起業促進につながるプラットフォームなのかわからない。また、医療データと地域エネルギーはある程度のビジネスとして動き出す可能性があるにも関わらず、自主的にコワーキングスペースでやってくださいというのも噛み合っていない。どのような規模なのかも見えない。医療データや地域エネルギーの大きな案件をやろうとすると、1つの課ではなく、部をまたぐ話になってくるため、プラットフォームまで市が面倒見られるのか不安がある。企画課が入っていく中である程度コーディネー

トしていくことがあると思うが、かなり市が関与しコーディネートしていかないと機能しないと思うので、どのように市が関与していくのか、もう少し詳細に示してほしい。

【市長】明らかに特定の部につながっているものはその部が担うが、多くは企画課が主になって動いていくことを想定している。

【菊池氏】企画課のマンパワーが大変ではないか。また、物理的な場所も大切だが、バーチャル的な空間として、インターネットを活用することも検討できるのではないか。市の負担やお金をかけない方法で実施できたら良いと思う。

【山科氏】目的は企業誘致のためのプラットフォームと認識しているが、市がやりたいことと、企業がやりたいことのどちらにスタンスを置くかで書き方が変わってくる。現在の資料は、どちらの要素も入ってしまっているため、どちらかに焦点を合わせるべきではないか。市として何をしたいかも一度整理していただきたい。

【畠中氏】参加事業者へ説明する際の資料の時は、目的の書き方に注意しなければならない。当然企業誘致が先で、その結果として地域課題の解決へつながると考えていると思うが、問題となるのがそのスピード感だと思うので、今後色々な仕組みを使って考える必要がある。名称については、プラットフォームという言葉は使い尽くされた感がある。ヨーロッパのパリでは、ベンチャー企業が3,000社程集まっているインキュベーションオフィスの総称としてスタシオンFというものがある。語源はステーションである。フランス政府も参加しており、世界最大のインキュベーションオフィスと言われている。今回、規模は違うが似たようなことをしようとしているのではないかと考え、名称は「ステーションZ」というのはどうか。スポンサーになってくれる企業が出てくれば、運営もその企業が主となって行うことができる。例えば、医療WGで湘南キャンパスを持っていない医療系の大学が関心を示す可能性もある。そのためにも参加事業者メリットを1つのストーリーに見立て、明確に示す必要がある。接点を作っていけば、企業誘致へもつながると考える。

【山科氏】企業誘致だけでも大きな話なので、方向性を絞った方が良いのではないか。まずは名称を考えるということでどうか。名称が決まってくると、中身も見えてくるのではないか。

【筒井氏】名称を考えるにあたって確認したい点がある。企業に属する個人が主に参加する企業セミナー的なもので、そこからビジネスの種になるものを見出すのか。それとも国庫補助金等を想定したある程度ボリュームのある予算を獲得するためのものなのか。事業の大きさによって、事業の進め方、箱、予算、関わる人も変わってくる。インキュベーションを作るのであれば、市が器を1つ用意しないとスポンサーもこない。コワーキングスペースのような小さな器ではない

と考える。どちらを市がやりたいかが見えてきた方が、名称を決め易いのではないか。

【玄氏】本日プラットフォームという名称を提案された意図はどこにあるのか。

【福本】名称については、前回協議会という形で出したが、より誤解のない言葉として皆さんが知っている言葉で、プラットフォームに変更した。

【橋本】自分の周りには、都内から転入し、子どもを学童へ預けて働いている人が多い。都内から移住した方は、逗子の自然の中で子育てをしたくて引っ越してきた人が多いが、仕事をしているため子どもを学童に預けざるを得ない状況である。自分たちの時間をシェアして自然の中で子育てをできないかという意見があるが、皆仕事をしており、実現には様々なハードルがある。このような地域の困り事にビジネス手法を取り入れ、解決することができたら、子育て中のお母さんたちも満足することができるのではないか。また、学童保育の待機児童の解消にもつながるのではないか。

【畠中氏】橋本さんが言ったことはとても重要なことである。地域課題ではなく地域ニーズと言うことによって、事業者としてビジネスチャンスとして受け止めやすくなる。

【玄氏】日常に起きている課題の規模なのか、もう少し広い地域全体で考えるべき課題の規模なのではないかと思う。

【畠中氏】地域全体の課題はあるが、日常に起きている課題の規模から提示することにより企業もビジネスへつなげやすくなるのではないか。地域課題をまず提示するのではなく、結果的に地域課題へつながればよい。基本的にこのプラットフォームは、インキュベーションを意図しているということによいか。

【山科氏】インキュベーションは大変なので、できているものをどのようにして逗子へ持ってくるかという企業誘致の方が逗子市に合致しているのではないか。

【畠中氏】企業誘致とインキュベーション、両方ではないか。

【橋本】この会議の最初の回で、企業誘致をするのに逗子らしい企業とは何か。という話をしてしたが、逗子に誘致したい企業の像が見えないまま、このプラットフォームを進めて良いのか。それとも特定の企業像をターゲットとして進めるという戦略があった上で進めていった方が良いのか、その辺りが明確となっていないので、分かりづらいと感じた。

【市長】国庫補助金等を活用し事業を行いたい企業がいる場合、補助金の申請主体が市等の自治体に限られている場合がある。現在、補助金申請を受け入れる体制が庁内にないため、プラットフォームにその役割も持たせたい。また、補助金とは関係なく、逗子市で何かやりたい方の受け皿としての機能を担えれば良いと考えている。その結果として、企業誘致や起業促進につながると良い。

【畠中氏】補助金申請を企業の参加メリットとして示すことは、具体的で分かりやすい。

しかし、直接企業誘致にはつながらないのではないかと。

【市長】例えば医療データを活用するWGの場合、大学も参加して、そこに製薬会社等が集まってくることで、大学のサテライト等を誘致できる可能性が出てくるのではないかと期待している。動きが出てくるのが結果として、次の展開につながるのではないかと。

【山科氏】【資料1】（仮称）プラットフォーム設置についての2頁に記載されているWGは、具体的に動いているものがあるのか。

【福本】医療・福祉WGとエネルギーWGは、既に動きがあるものである。

【山科氏】動いているWGがあるのであれば、それを例にして、どのような補助金メニューなのかを提示してもらえたら分かりやすくなるのではないかと。

【市長】現時点で完成形が見えているものではなく、動き出すことにより先が見えてくるのではないかと。

【筒井氏】医療・福祉等のように補助金を財源にある程度大きな規模の事業を展開し企業誘致に資するものと、インキュベーションとして起業活動を促進するための器としての役割を両立していくことを目指していると認識した。前者のある程度の規模の補助金事業を示し、それを指すための受け皿も準備されているという示し方が良いのではないかと。

【福本】プラットフォームには化学反応を期待している。市がインキュベーションを行う能力が情報、施設等に心もとない状況のため、インキュベーションに正面から向き合うことは想定していない。まず課題（ニーズ）を提示し、国庫補助金等の申請や規制緩和といった、市が関わらないと進展できないものには市が対応し、企業の方には可能性を感じて集まってきてもらいたい。医療・福祉とエネルギーのWGは出来上がっているものを逗子市へも取り入れるイメージをしている。

【山科氏】7月14日（日）の活性化会議に提示する際に、もう少しまとめて提示してもらえるとよい。

【楠元】それぞれのWGで具体的なことをやる中で、全体ミーティングを行う意味が資料からは分からなかったが、福本次長の説明で、他のプレイヤーと情報交換をすることで化学反応が起きる期待ができるのではないかと感じた。今後プラットフォームを運営していく際は、途中参加の企業をどのように個別WGに流していくか等整理が必要である。

【副市長】行政としては、企業誘致という大きな目標はあるが、出来るところから取り組む必要があり、補助金をとりたいという事業者のニーズに応えるためにもプラットフォームが必要である。

【菊池氏】補助金について、調査研究段階では10/10の補助金はあると思うが、事業が動き始めた時の補助金は1/2補助金となるケースが多い。その際、市は残りの1/2を負担する予定はあるのか。市が負担しないのであれば、企業へ説明する際は、

誤解がないように注意しなければならない。

【市長】基本的には、実質的な市の負担を伴うものは申請できないと考えている。

4 企業誘致を進めるためのアプローチの検討について

事務局（福本）より企業誘致を進めるためのアプローチの検討について説明
（意見交換）

【山科氏】仮定でもよいので、具体的にできる範囲で数字を示してもらえるとよい。

【市長】基本的には予算を掛けずに行っていきたいと考えているが、企業誘致を進めるにあたり、皆様からご意見をいただき、予算が必要であれば令和2年度の当初予算で計上することを検討しなければならない。

【筒井氏】スピード感を持たすなら、制度を先に議会承認をもらい、予算措置を行うスケジュールがよいのではないか。

5 その他

- ・楠元よりふるさと納税について経過報告
- ・まちづくり景観課長より空き家について経過報告

6 閉会

- ・次回の会議開催について
次回は9月30日（月）17時から開催することとする。

以上